

笑顔 太陽 キラキラ!

# 赤れんがハッピーフェスタ

9月7日～23日、赤れんがパークで赤れんがハッピーフェスタ2019が開催されました。期間中は、海の京都吹奏楽フェスタなどの音楽イベントのほか、おなじみの赤れんがパズルやグルメブース、東京ディズニーシーから「ダッフィーバス」もやって来て、夏の暑さが残る中、多くの家族連れでにぎわいました。



ダッフィーバスの前で「はい、ポーズ！」



赤れんがパズル



かき氷おいしいわ～！



アメ細工にくぎづけ



マーチングパレードは大盛り上がり



# まいづる元気人 Vol.69

## 夢と笑いをお届けします



マジシャン 谷田 吉久さん

地域の行事や放課後児童クラブ、高齢者のサロンや福祉施設などで「マジック笑」を披露し参加者に笑いや元気をお届け。まちを歩くと「手品のおっちゃん」と小さい子どもからも声をかけられる人気者に。そんな谷田さんにマジックをはじめたきっかけや活動にける思いなどを伺いました。

### 初めて披露したのは

マジックを始めたのは、40数年前にさかのぼる。地域の愛護会役員に選出され、町内会の催しで子ども達の前で披露したところ意外と喜んでもらえたことから。当時は仕事との両立が大変でした。シヨウをするには、練習や準備など必要なもので、でも口コミなどで広がり、いろいろなところから声をかけてもらって、仕事を退職した今は、自分も楽しみながらやっています。苦勞もしました自分の趣味で多くの人が笑顔になるのが嬉しくて、その笑顔が次々と新しいマジックを生み出してくれるんですと語る。

### 笑顔にするための工夫

どうすればお客さんに楽しんでもらえるかを常に考え、呼ばれたイベントの年齢層や参加者に合わせて内容を工夫しているという。高齢のグループからの依頼には、前半にマジックを披露し、後半はハーモニカ演奏や懐メロを歌う。「懐かしい歌や思い出話をする」と、参加者は昔を思い出して笑顔がこぼれます。私は早くに父親を亡くしているので、両親に会いに行っているようで、楽しみにしていますと語ってくれた。

### ふれあいを大切に

中学生や学校の先生、保護者など、多くの地域の皆さんと一緒に作り上げたマジック劇を総合文化会館で披露したこと。家族も活動をサポートしてくれていて、時にはマジック教室の材料を作り、子ども達が小さい頃は助手として福祉施設などを一緒に訪問したこともあるのだとか。

「行事が重なった時は、マジック教室の仲間と手分けして出演し、楽しみにしているお客さんに多くの笑顔をお届けられるよう心掛けています」とお客さんを第一に考える。

大きな舞台から地域の小さな催しまで、たくさんの人々を笑顔にし続けて約40年、来年で80歳を迎える。今後の展望を聞くと「小さなテーブルで同年代の人たちと、マジックだけでなく、思い話に花を咲かせながら活動し、これからも多くの人とのふれあいを大切にしたい」と答えてくれた。

これからも得意のマジックで、たくさんの人を素敵に笑顔に変えていってほしい。

## まいづる 花図鑑

vol.156



シュウメイギク (キブネギク) (キンポウゲ科)

室町時代に中国から渡来したといわれる多年草。鑑賞用として庭に植えられているが、人家近くに自生していることがある。茎は高さ50～70センチほどで、葉は長い柄があり3出複葉。秋、長く伸びた茎の先に菊に似た花をつける。花は径5センチ位で淡紅紫色で花弁はなく、花弁状に見えるのは萼片(花冠の外側の部分)。他に白色、淡紅色などがある。

名前の由来は「秋明菊」で秋に菊に似た花が咲くことから。別名キブネギクは、京都の貴船に多かったと言われることから。

【協力】 瓜生勝朗/市文化財保護委員(植物分野)